

〇●〇聴覚障がいについて知ろう〇●〇

聴覚障がいとは、聴覚の機能になんらかの障がいがあるために、聞こえにくい、または聞こえなくなっている状態をいいます。

生まれつき聴覚に障がいのある人もいれば、突発性難聴などで、人生の途中から耳が不自由になった人もいます。

聞こえ方もそれぞれ差異があり、話し言葉が聞きとりにくい、音がひずんで聞こえる、低い音が聞こえにくいなどさまざまです。

困っていること

- ・外見ではわかりにくい障がいのため、周囲に気づいてもらえないことがあります。

特に中途失聴の場合は、話せる人も多く「呼びかけたのに無視された」などと誤解されることがあります。

- ・手話を使えばわかると思われず。

聴覚障がいのある人が手話を使えるとは限りません。手話を習得していない人も大勢います。

- ・放送や呼びかけに気づかないことがあります。

銀行や病院などで不在だと思われることがあります。店内放送や駅の構内放送に気づかず、適切な行動がとれないことがあります。

サポートするときのポイント

- ・コミュニケーション方法を確認しましょう。

コミュニケーション方法が適切でないと、話を伝えることができません。

聴覚障がいのある人とのコミュニケーション方法は、「手話」「筆談」「口話（口の形を読み取る）」などがあり、聞こえの程度、失聴した年齢、言語力、教育歴、家庭環境などによって、一人ひとり主とする方法は異なります。

- ・口話で伝える場合は、向かい合った状態で、口の動きを、大きくしゆっくり話しましょう。
- ・筆談をするときは、短く簡潔に書くこと。記号や図を用いて、わかりやすく表現することを心がけましょう。

困っている様子がわかったら、声をかけ、意思を確認してサポートしましょう。

耳マークについて

聞こえが不自由なことを表す国内で使用されているマークです。このマークを提示された場合は、相手が「耳が不自由である」ことを理解し、コミュニケーションの方法に配慮ください。

